

様式 3

会 議 録

<p>会議名 (審議会等名)</p>		<p>第 7 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会</p>			
<p>事務局 (担当課)</p>		<p>都市計画課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通) 生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通) 公園課 電話 0 4 2 - 7 0 7 - 7 0 2 2 (直通)</p>			
<p>開催日時</p>		<p>令和元年 1 1 月 9 日 (土) 午前 9 時 3 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分</p>			
<p>開催場所</p>		<p>相模原市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室</p>			
出席者	市民検討会 委員	1 8 人 (1 4 ページのとおり)			
	有識者協 議会委員	4 人 (1 4 ページのとおり)			
	その他	2 人 (施設担当者)			
	事務局	1 3 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 1 0 人)			
	運営・検討支援 業務受託者	7 人 (セントラルコンサルタント株式会社)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	4 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由					

会議次第	<p><開会あいさつ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市民検討会委員アンケートのまとめ 2 これまでの市民検討会で出された課題の整理 3 オープンハウスの開催概要とアンケート結果 4 今後の市民検討会の目標とスケジュール 5 公共施設の検討条件と基本計画（案）検討パターンの概要 6 次回以降のグループワークの進め方について
------	--

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（市民検討会委員の発言、有識者協議会委員の発言、事務局の発言、運営・検討支援業務受託者の発言）

1 経 過

公園課長による開会の後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長の進行のもと傍聴の確認を行い、次第内容について運営・検討支援業務委託者が説明し、市民検討会委員との意見交換を行った。

2 議 事

（1）市民検討会委員アンケートのまとめについて

前回の市民検討会においてアンケートの概要を報告したが、今回はどんなアイデアや意見があるのかを詳しく整理した。アンケートの回答には様々な視点が含まれているため、それぞれの視点で回答を分類して、大まかな傾向を整理した。

今後の進め方における検討手順と手法、検討内容に対する意見では、目標、手順、スケジュールの確認と公共施設の検討が一番多い意見となった。

まちづくり、公共施設、公園における魅力向上や地域課題解決のためのアイデアについては、まちづくりでは交通・道路に関する意見、公共施設では施設の配置について、鹿沼公園では公園の将来像についての意見が最も多い結果となった。

(2) これまでの市民検討会で出された課題の整理について

第1回から第5回までの検討会で出された課題やアイデアについて、全体像把握のため整理を行った。

市全体の課題として、短期(～3年)には高齢化率が25%を超え、中期(概ね3～10年)に総人口が市全体として70万人を割り込むこと、長期(概ね10年以上)には公共施設の更新がピークを迎え、高齢化率が40%を超える状況になっていくことが挙げられる。この場合の対策として、まちづくりでは、短期的なもので、マナー啓発による安全な歩行者空間の確保、中長期的にはコミュニティバス路線の見直しや歩道の整備等が必要となる。公共施設では、短期的なもので補修や維持管理、多様なニーズへの対応、その後老朽化した公共施設の複合化などによる更新・改修が必要になる。民間のノウハウの活用も施設の更新と併せて考えていく必要がある。公園では、短期的には老朽化した公園施設の更新、遊具等の適切な管理、野球場の多目的利用や駐車場の有料化、その後の中長期的な課題として樹木医の育成、公園機能の見直しや公共施設との複合化等が挙げられる。

現在の市民検討会が検討しているのは短・中期的な部分を中心であるが、長期的な課題も見据えながら、検討していく必要があると考えられる。

(委員からの質問はなかった。)

(3) オープンハウスの開催概要とアンケート結果について

【オープンハウスの開催概要について】

令和元年10月14日～15日にオープンハウスを開催し、淵野辺駅の南北自由通路、市立図書館、大野北公民館、青少年学習センター、鹿沼公園の5カ所で開催した。内容は、相模原市の今後の人口減少や財政の問題、これまでの市民検討会の検討内容について説明し、市民検討会で議論されたまちづくり、公共施設、鹿沼公園に関する課題解決のアイデアについて、自分の考えに近いものをシールで投票してもらった。

次世代に引き継ぐまちづくりで最も重視したいこととして、上位3つの投票結果は、「鹿沼公園の改修、自然の保全」、「身近な買い物環境や医療施設等生活利便性の維持、向上」、「公共施設の更新・機能再編」であった。公共施設について、将来にわたり、より多くの人に喜ばれる施設とするためのアイデアについては、「施設を集約・複合化し、ニーズへの対応、新たな魅力創出、運営の効率化を図る」、「その時のニーズだけでなく、次世代の人たちにとっても使いやすい施設にする」、「カフェのように、おしゃべりや飲食ができる居心地の良い空間のある施設にする」であった。これからの鹿沼公園に求められる機能については、「災害時の避難場所や防災拠点等の防災機能」、「池や

樹木等の環境施設」、「図書館や植物観察園等の教養施設」であった。

【一般市民アンケート調査結果について】

一般市民へのアンケートとして、淵野辺駅周辺に住む方々を対象に行ったインターネット調査と、それ以外の市民や近隣市の方々を対象に行ったモニター調査の2種類を行った。インターネット調査結果の上位3つの意見では、まちづくりと公共施設がオープンハウスと同じ結果になっており、鹿沼公園では3つ目に多かった「図書館や植物観察園等の教養施設」が、「芝生広場等の休憩・レクリエーション施設」となった。

モニター調査では、まちづくりについては、「身近な買い物環境や医療施設等の生活利便性の維持、向上」、「公共交通機関の利便性確保・改善」、「静かで暮らしやすい居住環境の保全」となり、公共施設はアンケート調査と同じ結果になった。鹿沼公園では、「災害時の避難場所や防災拠点等の防災機能」、「バリアフリーや防犯等に配慮した安全・安心機能」、「利用しやすい駐車場や駐輪場」という結果であった。

アンケートのその他意見については、次回以降に分析して結果の報告を考えている。

【質疑応答】

インターネット調査とモニター調査の分析結果では、どのような傾向があったのか。

オープンハウスの感想として、参加者の年代を考えると高齢の方が多い傾向が見られた。インターネット調査、モニター調査は、年代のバランスがとれている結果になったと考えている。

モニター調査の対象者は誰になるのか。

ウェブ調査を実施している会社があり、そこに登録されている方に対してアンケートを依頼している。

インターネット調査で「希望者には紙のアンケート調査票を送付」とあるが、アンケートは全体の傾向をみるためのものでもあると思うので、希望する人に送ると偏りが出てしまうのではないかと思う。調査のデータをみる上で偏りが出てしまうという意味ではどうなのかなと思う。

紙の調査票は、インターネットで回答する環境のない方や不慣れな方を対象としている。インターネット調査は、無作為抽出した方にはがきを送付し、ホームページにアクセスし回答いただくものである。インターネット環境がないなどの場合に、事務局に希望すれば紙のアンケート用紙を送る対応をした。

知り合いの家では世帯主宛てにはがきが届いていたが、関心がなさそうだったから、自分が答えたという方もいた。関心のある人がアンケートに答えられなくなってしまう。

次回以降参考にさせていただきたい。

(4) 今後の市民検討会の目標とスケジュールについて

今年度の市民検討会の目標とスケジュールについては、前回の検討会で目標をはっきり設定したほうがいいという意見があり、これまでの意見やアンケートの結果等を踏まえて進め方を検討した。

1点目は、次世代に引き継ぐ淵野辺のまちのイメージとして、皆さんがまちに愛着をもっていて、この環境を継続していきたいこと、公共施設の老朽化に関しては、良いものを残しつつ、悪いものを改善して、これからの時代のニーズに合わせていくことが必要というイメージで整理している。この点は、アンケートの結果などから、基本的に市民検討会と一般の方の感じていることはおおむね同じなのではないかという点まで確認できたと考えている。

2点目として今後の進め方のたたき台ということで、まちの方向性を確認し、実現性などの議論、市が検討したパターンとその前提となった条件を確認する。また、今年度の目標案としては、例えば「鹿沼公園と公共施設を生かしてまちの魅力アップ」をテーマとし、まちの魅力の中心は鹿沼公園であり、公共施設がこれからの淵野辺のまちに大きなインパクトを与えるものだとすることを考えながら、それを生かしてまちの魅力アップしていくにはどうすればいいのか考えていただきたい。具体的には、公園と施設の機能の組み合わせ、施設の配置、そのパターン、実現に向けた課題も併せて整理する。そこまでを今年度3月までに実施していこうと考えている。

スケジュールとしては、第8回と第9回でグループワークを行い、第8回は押田先生、第9回は野口先生から講演をしていただく。検討パターンについて議論を深めて、実現可能性やまちづくりへの効果、課題について考えていきたい。その後、第2回オープンハウスと第2回市民アンケートを行い、ここまでの成果を市民の皆さんに見ていただき、最後の第10回で今年度のまとめと来年度以降の市民検討会をどのように進めていくのかを議論して、今年度は締めたいと考えている。

【質疑応答】

今年度決めた目標は来年度の市民検討会の前提になるのか。

今年度積み上げてきた内容も含め、来年度以降も引き継いでいく。

オープンハウスのアンケートが5つの場所でやられていたが、開催場所にはその施設の利用者が多いと考えられるため、次のアンケートはもっと踏み込んだ形がよいと思う。

今回の傾向をもう少し詳しく分析し、その結果を踏まえて、次のオープンハウスのやり方を工夫する。

次年度以降の委員の選定について、施設関係者はその施設の中で誰が委員になるかは施設に任せているということか。

基本的にはそのように考えている。

今までのペースだと任期が切れるまでに具体的なことまでは決まらないのではないか。今までずっと勉強してきて、やっと具体的な検討に入る段階で委員の任期が切れてしまうと、うまく引き継ぎが行えない。私は次年度も委員をやりたいと思っているが、それでも公募し直しということになるのか。

今回頂いた意見を参考に、来年度の公募委員については検討する。

第8回、第9回の有識者の講演会予定をもっと早くやってもらって、いろいろな制限がある中で、これだけ市民の希望があっても守らなければならないのかなど、市民の分からない部分に有識者の知識を入れて検討したかった。今更講演があっても市民検討会があと3回で、委員も入れ替えるというのはありえない。

今までの流れは、まずは3つのワーキングで意見を出し合って、1度市民にアンケートで意見を聞いてというものであった。詳細な検討を早くやりたかったことは理解できるが段階を踏んできている。

この講演の予定は元々これぐらいの時期にやることを考えていたのか。

淵野辺の現在の姿がどうなっているのかが分からない中で、有識者に講演をしていただくのもどうなのかと思い、タイミングを探っていたところである。

今回の市民検討会は回数も期間も制限しないというのを聞いていたため、安心して来年も話ができると思っていた。新たに公募を募るのは構わないが、現在の委員がどうなるのか心配である。

ご意見として参考にする。

第8回と第9回のグループワークについて、せっかく公共施設、まちづくり、公園という3つのワーキンググループがあるのだから、ある程度同じテーマで議論がし合えるグループのほうが良いのではないか。

それぞれの意見が一緒にならないと淵野辺のまちづくりの検討は進まないと思っており、立場の違う方と一緒に考えていただきたいと考えている。グループワークのやり方は工夫していければと思うが、このプロセスを踏んだ方が、公共施設の議論もさらに深まっていくのではないかと考えている。

市民検討会が今年度で終わるということであるが、委員の意見をもう少し集約してもらい、継続したいという人がいれば、どんどん継続していくような形でよいのではないか。

ご意見として参考にする。

今回出された、たたき台や今後の市民検討会の目標等の案を第8、9、10回で議論していくということか。

今回の委員へのアンケートにおいて、具体的な施設の配置や複合化案をいただいております、次回はお互いのアイデアをもう一度集めて絵を描くということになる。

具体的な案が出るのはとてもわかりやすいため、それはぜひお願いをしたい。はがきで送ったアンケートは中央区の方しか対象になっていないのが気になる。公共施設は市の施設なので、関心をもっている市民が意見を出せるような方法でお願いしたい。それから、来年も市民検討会があるのだというので驚いている。1年という委嘱時期があるのに、時期にこだわらずというのはどういう意味の発言だったのか。

これだけの施設に関わる検討なので、1年で結論にたどり着けないだろうという前提があったためである。その中で皆さんのご負担も考えた結果、任期を区切る形で始めている。

市民検討会の皆様のご意見等々、確かにそうだなという点が非常に多いと思う。客観的な立場からの感想だが、市民検討会は市民要望を言う会ではなくて、あくまでも要望があった上での検討、提案をしていかなければならない。何人かの委員からは、こうしたらいいのではないか、こういう可能性があるのではないか、という提案に結びつくような発言もあったが、全体的な感想としては、要望を言うだけで、それによってスケジュール的に押してきてしまったということかと思う。

要望はひとまず出切ったとは思っているので、今後は限られた予算についても考慮しながら、知恵を出して行ってほしい。そう認識していただければ、あと3回程度で何とか形にはなるのではないかと思う。

(5) 公共施設の検討条件と基本計画（案）検討パターンの概要について

公共施設の検討条件ということで、公共施設の保全・利活用基本指針、建物ボリュームの制限、建替え中のサービスの継続の3つについて説明をする。

条件の1つ目は、公共施設の保全・利活用基本指針についてである。相模原市が公共施設マネジメントに取り組む上での基本方針ということで、サービス提供の適正化、民間委託等の適切な手法の活用、適正な受益と負担、未利用資産の活用などの7つの大きな方針にまとめている。

条件の2つ目は、建物ボリュームの制限についてである。都市計画法や建築基準法による規制が場所によって定められており、用途地域、建蔽率、容積率、日影規制などがある。鹿沼公園には都市公園法に定められた建蔽率の制限もあり、建築面積や床面積、高さ、形状といったものに制限がかかってくる。

条件の3つ目は、建替え中のサービスの継続である。現状使われている施設を更新していくことになるため、建設工事期間中も利用サービスを継続していくことを前提に考えていかなければならない。

最後に参考ということで、平成29年度の基本計画（案）の際に検討した施設の配置パターンを紹介した。考えられる公共施設の配置パターンを複数案検討して比較を行っており、そのときの条件として、既存施設の機能については維持していくこととし、現状の公共施設用地で建替える場合は、仮施設でサービスを継続する。跡地は民間への賃貸や売却によって財源として活用し、公園に公共施設を移設する場合には、公園のリニューアルを前提に、移転しない場合には現状維持というような条件で検討している。

(6) 次回以降のグループワークの進め方について

今回のグループワークは公共施設の条件を簡略に考えられる方法を使って検討していきたい。やり方としては、図書館を例にすると集会室や視聴覚ライブラリー、読書室、開架貸出、図書館バックヤード、こういった主な機能をカードにして、これを自由に動かして、どこに何があるのがいいのかということを考えていく。カードには必要な部屋の面積が記載されており、移動先の大きな枠には容積に相当する数字が書かれている。この枠の中で動かせるカードを移動しながら委員の皆さんに検討していただく。

【質疑応答】

やり方について提案させていただくと、施設カードを面積の大きさをカードにしたほうがいい。例えば200のカードと700のカードは同じ大きさのため、幾ら数字で書いてあっても、目で見ると認識は全然違ってくるので面積の大きさに合わせて作ったほうがいい。形としては正方形が一番わかりやすい。

2つ目、図書館の大きく赤い枠の2000という数字は、容積の面積、延べ床の最大の面積が書いてあると思うが、既存の箱ありきで考えている。これを含めて提案していくという話なので、初めからフレームは考えないほうがいい。

3つ目は、カードの置き場所になるが、地図の上に置いた方がいい。面積表と縮尺をあわせた地図にそのまま置いていけば、すぐに規模感が分かる。

4つ目は、部屋名で書いてあるカードを人の行動とか行為で名前をつけて、柔軟に対応できるようにした方がいい。「読書室」は、「読書室(読む)」とか「読書室(大人数で集まる)」程度の緩やかさを持っていないと既成概念にとられ過ぎてしまう。

現在、詳細なやり方を検討しているところであるため、またアドバイスをお願いしたい。

大枠が決まらない段階で細かい話に進んでしまったのかと思う。これをやる前に、公園内に公共施設をつくるのか、つくらないのか、そういった宣言のような大きな枠をつくって、それから意見を進めていかないと検討したものは余り意味のないものになってしまうのではないか。

私たちもそのように考えた部分もあるが、カードを置いてみるとわかることもあるかと思う。公園内に公共施設をつくるアイデアを出した方もおり、一方で逆の方もいるため実際に試して置くと、メリット、デメリットがお互いにもうちょっと共有できると考えている。これを動かしながら、そういう大枠を考えていくというようなやり方を考えている。

大枠を決めていかないと話がなかなか進まないと思っている。ただ、容積率でそこに入るからということでは話は進まないと思う。また、駅前を商業地域にしたいのか、したくないのか、その辺も決めてもらいたい。

公園について、全部入れたほうがいいのかという方、少しだけであればいいという方、全く入れないほうがいいのかという方、意見に幅があるため、いろいろと試してみて、その中で決めていったらいいのではないかと考えている。淵野辺に愛着を持っていることは確認しているので、皆さんの暮らしやすい現状の環境を維持するという前提で考えていただければと思っている。

このグループワークの方法はおもしろいと思っていて、計画案が初めに出たときに、素人ながら、大きさを勝手につくって、公園内に置いたりして検討していた。先ほど見せてもらった図書館のボリュームスタディで、もしもここに限界まで建てたら、延べ床面積が1万2222㎡になる。これがいいのか悪いのかは別として、少なくともここにこれだけのものが建てられるということは今までは知らなかった。基本計画(案)で示された施設の延べ床面積が7,745

m²ということは、お金の問題を抜きにして数字だけでみた場合、図書館の場所に入れてしまえる。そうなった場合のために公園には入れないという方向でどう実現するのかを考えるなど、方針が必要だと思う。

先ほどの検討条件のところの説明したが、お金の問題はある。ただし、検討しながら、コストを考えてというのは無理だと思うため、そこは皆さんから出た案をコンサルタントがコスト等を計算し、皆さんにもう一度見ていただくやり方で検討していければと思っている。

公園に建てるということは、お金のことより、公園の中に実はこれがあつたらいいという公園のリニューアルの話でもあるはずである。もともと平成29年の基本計画(案)では、この計画がなかったら公園のリニューアルもしないという前提だったため、それも変だと思っていた。基本計画(案)検討時の前提条件は今回どうなるのか。

基本計画(案)からは脱却していただきたい。基本計画(案)では公園に入れないのであれば、公園はリニューアルしないとしているが、あくまで条件のため、このパターンでやるけれどもリニューアルもするようなパターンが出てもいい。あくまでも当時の検討パターンによる数字であり、いろんな組み合わせがあるため、そこはこれからのカードのシミュレーションと合わせて、いろんなバリエーションを皆さんに生み出してもらえれば、有識者からもアドバイスをもらいながら、それを一つ一つ検証していきたい。そのため、基本計画(案)から脱却して、新たなパターンづくりを皆さんにお願いしたい。

基本計画(案)の主な検討条件ということで、移転する場合には公園のリニューアルを実施、移転しない場合には現状維持と書かれているのだが、建物を公園の中に建てなくても公園のリニューアルもあり得ると今おっしゃったが、それでいいのか。

案として提案してみたらどうかという話であって、実現できるかどうかは、今後の検討や予算、議会の議決等があるため、その中で最終的にどうなるかは別である。

公園のリニューアルは別として、公園の中に何も建てないという選択肢をつくってもいいという理解でよいか。

そういう理解でよい。いろんなパターンを出してもらい、そこから実現性を考えてみてはどうか。

今回一般市民へのアンケートをしてくれたのはとても有益なことだなと感じている。委員の我々はこうしたいというイメージがついていて、確かにそれが当然だろうというのはわかるが、それが数字として表れるのはすごくいいこと

だなどと思っている。アンケートの実施が委員に伝わっていないという意見もあったが、それも平等にやるための理由であるため、今回のアンケートは大正解だったなと感じている。

ありがとうございます。

1年という任期から、具体的な案を急いでいる気がするが、今回進行していただいている方にあわせて進めていくのがいいかなと自分の中では思っている。急ぎすぎないほうがいい。

ある程度いろんな案を考えてみると、外せない条件がみえてくると思うので、その辺を今年度できるだけ確認していければ、具体化に近づいていくのかなと思っている。

この施設カードで配置はおもしろいと思ったが、公共施設ワーキンググループで話が練られていない状況でこれをやると、今あるものだけになってしまう心配がある。

実はそのとおりであり、図書館を中央図書館化するという話があるため、そうすると、もっとスペースが要るかもしれない。ただ、今の段階では具体的な計画はないということであるため、まずどんな機能が、どの場所にあるのかがいいのかというのを検討していただきたい。それがあれば、図書館の具体的なことも詰めていけると思う。その辺については、公共施設とまちづくりとでキャッチボールしながら詰めていくというのが今後の進め方になっていくと思う。

いろいろと説明があったが、用途地域の問題とか建蔽率の問題で足かせをかけられたような感じがしていて、統合に関しては図書館の中に入ってしまうとか誘導されているような気がしている。

横浜市にある2万5,000人の住宅団地は、今1万5,000人しかおらず、50%が高齢者で、学校もなくなっていき、最終的に用途変更をしている。商業地域にも福祉を入れていかなければ、高齢者の問題は対応できない。あまり制限をつけなくていいと思う。

何の制限もなく検討するのは逆に難しいと思っている。

平成29年度の計画案に対して、賛成の方と反対の方のわだかまりが残っており、まずはそのわだかまりを解消しないとその先の議論はできないと思っている。今日この場で採決を取るのはいかがでしょうか。

採決を取るの難しい。お互いの立場とか、条件も含めて検討して、十分に情報の共有を行った上でそこを決めればいいのかと思っている。私見

であるが、平成29年の計画案に対するパブリックコメントも全部見てみたところ、検討するプロセスでいろんな立場の方の意見を最初から入れて検討していれば、もう少し違った着地があったのではと思っている。この場には、立場の違う方が集まっているため、まず考えを共有して、その後でその辺を決めていけばいいと考えている。

考えを共有するというのは最初の段階でやっているのではないか。

作業をする中で見えてくることもあると思っている。今までは一緒に作業をしているわけではなく、それぞれの立場で意見を言っていたため、ぜひそこを一度やってみて、その後決定していきたいと考えている。

わだかまりの部分を解消できるのではないかとということで参加させていただいたところがあるが、正直いってやり方がまわりくどく感じている。

わだかまを取り除くのがまわりくどいとは思うが、丁寧にやらないと解決しない問題だとも思っている。ぜひ一度やってみて、皆さんでどういうところに落ちつくのか検討していただければと思っている。

まちづくり懇談会というのが今回台風の影響で延期されているかと思うが、そちらと市民検討会との関係性について、検討会としての経過報告や、検討会の意見がどう扱われているのか確認したい。

まちづくり懇談会という市長が出席する催しが10月25日に予定されていたが、台風19号の対応ということで延期をさせてもらった。まちづくり懇談会で出た意見も、時期をみて報告をと思っている。また、市民検討会の議論の様子などもまちづくり会議の方へ報告していかなければと考えている。

市民検討会の内容は都市計画課から説明いただくということで、有識者の先生方や委員の中で誰かが話すことはないということか。

やり方はいろいろ工夫があると思うが、都市計画課でまちづくり会議に報告したいと思っている。予定は決まっていないが、6月に一度報告に行っている。

傍聴の方から出た意見は、どのようなものがあるのか。

今まで寄せられた意見としては、主に現状維持、早くPFIを入れて進めてほしいというような意見が届いている。

それは何かにまとめているのか。それをこの場でも知りたい。

特にまとめてはいないが、承知した。

< 講 評 >

・ 押田委員

いろいろと意見を伺う中で、私は公園を扱っている立場上、どうしても景観

というものを気にしている。施設を公園の中につくるというのは風景がすごく変わるため、地域にいる方にとって、慣れ親しんでいる風景がどう変わるかが見えない事が一番不安だったと思う。その上で1点注文したいのが、できればコマを立体にさせていただきたい。横浜と川崎でワークショップをやったときにブロックでやったが、きれいな建物の比率になるのでイメージしやすい。そろそろ、風景が変わるということを意識していい段階に来たのかなと思う。

・野口委員

立体にする場合は、階高を5メートルとか4メートルに仮設定するといい。

次回の検討で1人1案出せば、1日3時間で30案くらいできるため、皆さんは最短を求めがちになるが、たくさんある中から絞っていくというベーシックなやり方を実施して、その中から1個1個の可能性を拾い上げていくという作業がすごく重要である。

・小山委員

私もお二方の先生方と似たような意見を持っており、どこで、どのような機能やサービスを提供するのか、それは裏を返せば、どこで皆さんがどんな活動を行いたいのかを、実際に地図に落とし込むというのはなかなか面白いアイデアかなと思う。いろいろなパターンを一緒に考え、出てきた中からみんなと一緒に話し合いながら選んでいく、そういうプロセスが私は必要ではないかと考えている。また次回からの皆さんとの協議を楽しみにしている。

・鈴木委員

委員の方には少し誘導的な印象を感じている方もいるようなので、皆さん方が積極的にまとめるような方向での議論をなさるといいと思っている。

3 その他

事務局より、第6回の議事録（暫定版）を市のホームページに掲載しているため、修正等については11月18日（月）までに事務局に連絡してもらうこと、第8回の市民検討会を12月21日（土）の午前中に開催を予定していることを伝えた。

以上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
飯高 千里	欠席
植田 憲司	欠席
茅 弘秋	欠席
今 美和子	出席
佐野 玲希	出席
白石 一郎	欠席
畑 耕一	出席
山林 亮太	欠席
渡辺 章	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
安達 和夫	出席
内田 清	出席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	出席
佐伯 明美	出席
瀬戸 凌太郎	欠席
高柳 眞木子	出席
平本 峻	欠席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
岸本 孝史	欠席
山口 清孝	欠席
城田 大介	出席
狭間 宏明	欠席
北條 幸治	出席
前田 智恵子	出席
山本 有紀	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
押田 佳子	出席
小島 仁志	欠席
小山 憲司	出席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	出席
山口 直也	欠席
山本 匡毅	欠席